



# GREEN LETTER

グリーンレター

**Vol. 233**

2016/03/01

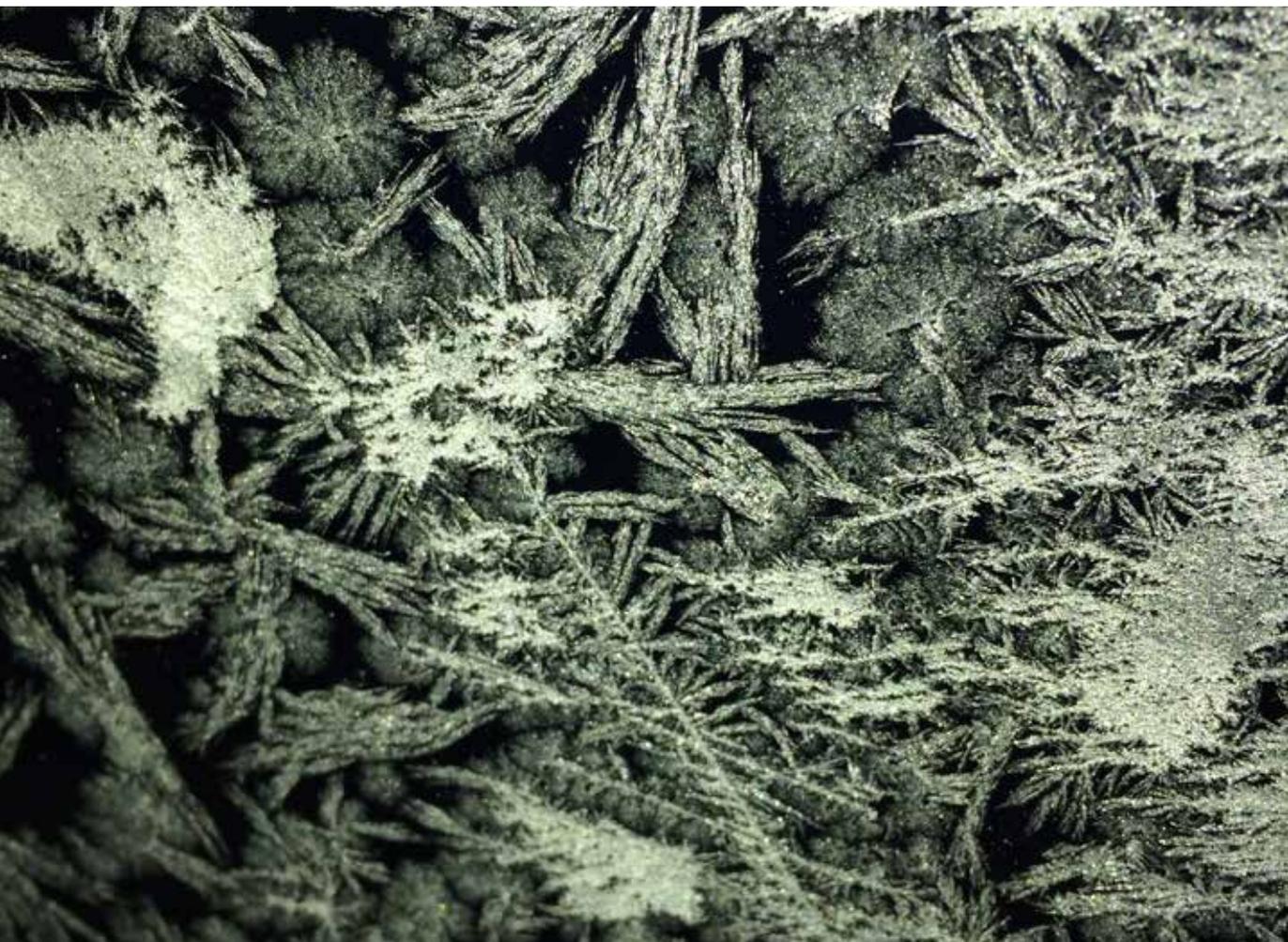
今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. 家族のじかんによせて
02. 文字の形をした生きもの



今月の一枚



**Photo**

## 「この季節だけの美しさ」

表紙写真・文／福田春美

仕事を終えて車に乗り込むと、フロントガラスに霜がびっしり。朝ならば急いでゴシゴシ削り落としてしまうところですが、闇夜に浮かぶ自然の芸術作品は美しく、しばしの鑑賞タイムとなりました。

こんな、冬だけのお楽しみともそろそろお別れかなと思うと、少しさびしいような。……でもやっぱり、早く春が来てほしいなあ！と願う、しばれる夜でした。

# Event. 今月のイベント

ロビー展「北海道を大調査! 環境 DNA でイトウを探せ!」 3月1日(火)～3月13日(日)

企画展「家族のじかん」 3月19日(土)～5月29日(日)

プチ工房「バスボムづくり」 3月10日(木),17日(木)

博物館講座(自然編)「美幌周辺の自然情報」 3月19日(土)

モノ作り講座「鳥型たこ作り」 3月30日(水),31日(木)

# Information. 参加者募集

## プチ工房 「バスボムづくり」

●3/10(木),17(木)10:00-12:00,14:00-16:00 自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館1F 講座室 ●材料費(200円) ●城坂結実(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

## 博物館講座(自然編) 「美幌周辺の自然情報」

【講演会】 ●3/19(土)9:30-12:00 ●美幌博物館2F 視聴覚室 ●無料 ●村上隆広氏(知床博物館),美幌高校生徒ら ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

## モノ作り講座 「鳥型たこ作り」

●3/30(水),31(木)10:00-11:30 ●美幌博物館1F 講座室,前庭 ●材料費(200円),セロハンテープ,野外で活動できるあたたかい服装,手袋,帽子,足下は長ぐつ・スパッツ等でお越しください。 ●城坂結実(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(3/1-3/29)。対象は幼児から一般,小学生3年生以下は保護者の同伴が必要,定員8名で締切。

今月の休館日

7日, 14日  
22日, 28日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用,持ち物 ●講師 ●申込み方法

## 01 GREEN COLUMN グリーンコラム

# 家族のじかんに よせて

写真・文／福田春美



3月19日(土)より、企画展「家族のじかん」が始まります。これは、美幌博物館の収蔵作品の中から、「家族」をキーワードに選んだ作品を展示する美術展です。出展作品は人物をモチーフとした絵画や彫刻が中心となっており、約40点が並びます。総合博物館である当館において、テーマから立ち上げる美術の企画展は、実に11年ぶりの開催となります。

今回の展示会は、特定の作家や作品そのものに焦点をあてるよりも、まずは美術そのものに親しんでいただくことを念頭に置きました。そして、子どもからお年寄りまで幅広い年代の方に足を運んでいただくには…と思いをめぐらせた結果、たどり着いたのが「家族」というキーワードでした。

展示作品には、母と子、兄と妹といった、寄り添う家族をテーマに制作されたものが登場します。また、その

ような心温まる情景ばかりではなく、孤独や別れを連想させたり、自己との対峙を描いたものもあります。それらの作品に対しては、鑑賞者の年齢や人生経験から、さまざまな感じ方が生まれることでしょう。特に、描かれた人物の表情をじっくり見ていただけたら幸いです。

そして、今回は作品展示だけではありません。美術の本が読めるコーナー、家族写真を撮影できるコーナー、クイズラリーといった、来場者の皆さんが気軽に楽しめる体験メニューをご用意しています。5月29日(日)までの会期中、この空間にて多くの方の「家族のじかん」が繰り広げられることを願っています。

※写真は小島和夫「冬の日2」です。

## 02 GREEN COLUMN グリーンコラム

# 文字の形をした 生きもの

写真・文／鬼丸和幸



**博**物館の裏は、美幌みどりの村森林公園になっています。冬でも、気軽に森林散策ができる場所です。特に、北海道に特徴的に生えるトドマツ（針葉樹）の林の中は、トドマツの明るい木肌が、雪の白色や空の青色と絶妙に混じり合い、心地よい雰囲気味わえます。

さて、トドマツの木肌をよく観察すると、スポンジ状のコケの様なものがついていたり、黒い線のようなものがついていたり、白いウロコ模様のもがついていたり、様々なパッチ模様がついているのがわかります。

これらの多くは、地衣類と呼ばれている生きものです。地衣類は、菌類（キノコの仲間）と藻類（いわゆる藻くも）の仲間）が共生してできた特殊な体をしています。藻類が栄養を作り出し、その栄養を菌類が利用しているという実にユニークな生き方をしています。

野外で地衣類の種類を見分けるのは、とても難しいことです。しかし、その中でも、観察するのにオススメなのが、“モジゴケ”の仲間。名前の通り“文字”のような形をしており、一目見て、「なるほど、これがそうか！」と思えます。モジゴケの仲間は、数種類存在しますが、それぞれいろいろなタイプの文字形があり、見ているだけで楽しめます。

チズゴケ（地図？）、ハダカウラミゴケ（裸恨み？）、センニンゴケ（仙人？）、レモンゴケ（レモン？）ソバカスゴケ（そばかす？）…ユニークな名前が多い地衣類。名前のイメージから、どんな姿を思い浮かべますか？

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 ( 72 ) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

## 学芸員のつぶやき



故 赤塚不二夫氏（漫画家）は、かつて事務所スタッフに数億円持ち逃げされても「しょうがない、仲間だったのだから」と許したといひます。人気漫画「天才バカボン」の中で、「これでいいのだ」と主人公に言わせる名ゼリフは、氏のこんな人生観から生み出されたことを知りました。そう思っ  
て「天才バカボン」を再度読んでみると、また違った面白さを感じる事ができました。（鬼丸）